



# Sun Fire™ X4600 M2 サーバー ご使用にあたって

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

部品番号 820-0799-10  
2007年2月、改訂A

本書に関するコメントは、次の宛先までお送りください。<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス被許者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア (フォントに関するテクノロジーを含む) は、著作権を有する当該各社より米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーが採用されています。

AMD Opteron は Advanced Microdevices, Inc. の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェースは、米国 Sun Microsystems 社がユーザーおよびライセンス被許者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェースに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

---

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

AMD Opteron est une marque de fabrique ou une marque déposée de Advanced Microdevices, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに ix

サービスプロセッサおよび BIOS の問題 1

サービスプロセッサファームウェアの問題 2

サービスプロセッサで、ハードディスクが取り外されたあと、イベントのログが書き込まれず、警告も表示されない (6306536) 2

ILOM Web GUI または CLI で、16 文字のパスワードを使用してサービスプロセッサにログインできない (6286187) 2

ILOM CLI で報告されるハードウェアコンポーネントのデータと IPMItool で報告されるデータが一致しない (6371317、6420808) 3

点滅する LED に ILOM CLI クエリーを実行すると、LED が点灯しているのか消灯しているのかによって、発動の状態と返されたり、アサート停止の状態と返されたりする (6417946、6420919) 3

起動 CPU ダイオードの温度が通常より低くなる (6441857) 4

ブートアップ中にシリアル接続に関する無視できるエラーメッセージが表示される (6484089) 4

BIOS POST エントリの変更により、BIOS イベントの一部が ILOM GUI システムのイベントログに記録されない (6484085) 5

IPMItool と ILOM GUI で同時にアクセスすると、GUI データが正確に表示されない (6484162) 5

SSL 証明書がアップデートされたときに、SP がユーザーに自動的に通知しない (6484082) 6

SSH 経由のコマンドが中断されたり繰り返されたりすると、SP がハングすることがある (6378849) 6

仮想フロッピーデバイスが応答せず、Solaris のブート時間が非常に遅くなる  
(i2c ハング) (6401983) 7

シェルプロンプト応答がないので、ルートユーザーが ILOM にログインできない  
(6444399、6475327) 7

Sun Fire X4600 M2 サーバーに誤って不適切なプラットフォームファームウェアをフラッシュしてしまった場合の回復 8

しきい値が低すぎるため、CPU 温度測定値が煩雑になることがある  
(6412517) 9

BIOS イベントログが CE エラーを検出しても、SP SEL に同じ CE エラーが表示されない (6463628) 9

実装されていないシンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップ  
(6300437) 10

その他の SNMP の問題 10

## BIOS の問題 12

DIMM ペア 1 の修正不可能な DIMM エラーが DIMM ペア 0 として報告される 12

F8 キーと F12 キーがブート用の NIC カードの選択時に機能しない  
(6483787) 12

メモリー帯域幅が想定した値より低くなる (6468342) 13

メモリーの待ち時間が想定した値より高くなる (6468344) 13

BIOS が Four Bank Activate Window パラメータを正しく設定しない  
(6480843) 13

HPET タイマーを有効にすると、ランダムパニックが発生することがある  
(6478355) 14

すべてのデバイスがスキャンされる前に、PXE ブート用のオプション ROM の容量が使い果たされる可能性がある (6453144、6403173、6272514、6393809、6439856、6462303) 15

BIOS ですべてのデバイスがスキャンされる前に、12 個のブートデバイス制限を超える可能性がある (6268877、6439856) 18

HBA カードを取り付けるか取り外すと、BIOS 設定のハードディスクドライブの順序が変更される (6308569、6450677) 20

## LSI ファームウェアの問題 22

RAID ボリュームで 64M バイトのパーティション分けしていないハードディスク容量がメタデータ用に必要になる (6312581) 22

## ソフトウェアの問題 23

### Solaris オペレーティングシステムの問題 24

Solaris の起動時に表示される AMD エラッタ 131 警告メッセージは無視してかまわない (6438926、6447850) 24

2 番目のディスクを挿入すると、CD メディアからの Solaris 10 のインストールがハングする (6374024) 25

### Linux オペレーティングシステムの問題 26

X Windows Server の起動時の RHEL4 U3 の不一致エラー (6459079) 26

RHEL4 U3: LSI ハードウェア RAID が LVM パーティションドライブで機能しない (6450742) 26

特定の Linux プラットフォームで USB 1.1 を使用するときは無視できるエラーメッセージが表示される (6396561) 27

RHEL4 U3 で USB 2.0 がサポートされない (6396407) 27

RHEL4 U4 のタイマーティックのロスに関するメッセージは無視してかまわない (6483062) 28

ドライブトレイがないために RHEL4 U3/U4 の CD または DVD-ROM パッケージのコマンドエラーが発生する (6397835、6461354) 28

RHEL4 U3/U4 および SLES9 SP3 で GUI をブート中に無視できるエラーメッセージが表示される (6396561) 29

SLES9 SP3 のインストール中に 128G バイトのスワップパーティションを作成できない (6480937) 29

SLES9 SP3 のブートアップ ACPI エラーメッセージ: 戻りオブジェクトのタイプが正しくない (6461361) 30

SLES9 SP3 でフロッピードライブに対して重複するブートアップメッセージが発生する (6461350) 31

エラーメッセージ: SLES9 SP3 で「Not a Capable Intel Processor (対応する Intel プロセッサではありません)」と表示される (6461373) 32

SLES9 SP3 をグラフィカルモードでインストールすると、メモリー不足を通知するメッセージが表示される (6368933、6466229) 32

SLES9 SP3 で cdrecord -scanbus コマンドを発行すると、警告メッセージが表示される (6461376) 33

Emulex LPe11002 HBA カードが原因で POST が完了しない (6480975) 33

RHEL4U4 32 ビット版ではメモリーを 64G バイト以下にする必要がある (6496678) 34

## VMWare® ESX Server の問題 35

ESX Server ではメモリーを 64G バイト以下にして、CPU スロット間でバランスを取る必要がある (6477101、6486346) 35

ESX Server のメッセージ「Unexpected IO-APIC error (予期しない IO-APIC エラー)」は無視してかまわない (6486386、6471408) 35

ESX Server のメッセージ「invalid vmkernel id (無効な vmkernel id)」がネットワーク障害を表す (6471417、6486386) 36

ESX Server の dmesg ログのメッセージ「BIOS reporting unknown devices (BIOS が不明なデバイスを報告しています)」は無視してかまわない (6480821、6486386) 36

ESX Server のメッセージ「Syncing Hardware Clock to System Time [Failed] (ハードウェアクロックをシステム時間と同期しています [失敗])」は無視してかまわない (6486386、6473366) 37

ESX Server のメッセージ「Unable to get COS default route (COS のデフォルトルートを取得できません)」は、デフォルトルート IP アドレスが定義されていないことを示す (6486386) 37

ESX Server のメッセージ「Inquiry EVPD Device ID Failed (EVPD デバイス ID の問い合わせに失敗しました)」は無視してかまわない (6486386) 38

ESX 3.0.1 VMkernel をロードできない (6477101) 38

ESX 3.0.1 VMkernel が 1G バイト DIMM システムで不安定になることがある (6501233) 38

## SunVTS のブート可能診断 CD の問題 39

Bootable Diagnostics CD, Version 2.1f (ブート可能診断 CD バージョン 2.1f) の「Meter (メーター)」ボタンが機能しない (6465167) 39

## Windows Server 2003 オペレーティングシステムの問題 40

複数のフロッピードライブが存在すると、Windows ユーティリティの mkfloppy.exe が正しいフロッピードライブを選択しない 40

## ハードウェアの注意および問題 41

### ハードウェアの問題 41

動作時や取り外し時にハードディスクドライブの表面が熱くなることがある (6483742) 41

ヒートシンクおよびファンにほこりがたまることがある 41

- 最初の電源投入後システムファンが減速するまで1分以上かかる 42
- ディスクをDVD-ROMドライブに挿入するときには、ラベル側を左に向ける必要がある 42
- 高負荷時にmpflipを実行すると、シンクフラッドエラーが発生することがある(6479368) 43
- 操作中にUSBポートが無効になる(6424279) 43
- マウスのボタンクリックが反応しなくなることがある(6475437) 43

**索引 45**





# はじめに

---

本書では、Sun Fire™ X4600 M2 サーバーのハードウェアの問題、ソフトウェアの問題、ドキュメントの問題について説明します。

問題には、前提条件、ヒント、トラブルシューティングのヒント、変更リクエストなど、ユーザーが理解すべき情報が含まれます。変更リクエストには追跡番号があります（括弧内に表示）。変更リクエストのアップデートおよびパッチについては、SunSolve<sup>SM</sup> Web サイト (<http://sunsolve.sun.com>) を参照してください。

---

**注** – システムに同梱の CD に収録されているソフトウェアは、出荷時に取得された最新版です。再インストールやシステムリカバリに使用できます。ソフトウェアのバージョンは頻繁にアップデートされるので、製品ダウンロードサイトで、Sun の承認を受けたソフトウェアの最新版がリリースされていないかどうかを確認してください。

---

---

## 製品のアップデート

ダウンロードできる Sun Fire X4600 M2 サーバー製品のアップデートについては、次の URL を参照し、本製品に関するページに移動してください。

<http://www.sun.com/servers/index.jsp>

これらのサイトでは、ファームウェアとドライバ、CD-ROM .iso イメージのアップデートが提供されています。

---

## 関連ドキュメント

Sun Fire X4600 M2 サーバーのドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照してください。

[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64\\_servers/x4600/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64_servers/x4600/index.html)

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

---

## 表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% <b>su</b> Password:
AaBbCc123	新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前は値で置き換えます。	これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

\* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

---

## Sun テクニカルサポートの連絡先

サーバーに関して、本書に記載されていないテクニカルな質問がある場合は、次のサイトをご利用ください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

「Support (サポート)」メニューにある「Knowledgebase (ナレッジベース)」へのリンクを参照してください。

Sun テクニカルサポートに連絡する前に、次の情報をご確認ください。これにより、問題を解決するための支援が可能になります。

- 問題の内容 (問題が発生した状況、操作への影響など)
- コンピュータの種類、オペレーティングシステムのバージョン、製品のバージョン (パッチや問題に影響を及ぼしている可能性のある他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための詳細な手順
- エラーログまたはコアダンプ

---

## サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

---

## コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。フィードバックは次のサイトから送信してください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Fire X4600 M2 サーバーご使用にあたって』、部品番号 820-0799-10

# サービスプロセッサおよび BIOS の問題

---

この章では、Sun Fire X4600 M2 サーバーに関連する LSI ファームウェア、Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサ (SP)、および BIOS の問題について説明します。セクションのタイトル内に記載されている番号は、問題に関連する変更リクエスト用に内部で使用する追跡番号です。

この章では、次の項目について説明します。

- [2 ページの「サービスプロセッサファームウェアの問題」](#)
- [12 ページの「BIOS の問題」](#)
- [22 ページの「LSI ファームウェアの問題」](#)

---

## サービスプロセッサファームウェアの問題

### サービスプロセッサで、ハードディスクが取り外されたあと、イベントのログが書き込まれず、警告も表示されない (6306536)

ハードディスクをシステムから取り外すと、サービスプロセッサ (SP) はログへのイベントの書き込みを行わず、警告も表示しません。これは、ディスクドライブがホットプラグの場合サービスプロセッサは LSI SAS コントローラからイベントを受信せず、警告も発生しないことから、正常な動作です。

#### 対処方法

ありません。これは、正常な動作です。

### ILOM Web GUI または CLI で、16 文字のパスワードを使用してサービスプロセッサにログインできない (6286187)

パスワードの文字数がちょうど 16 文字の場合、ILOM Web GUI またはコマンドラインインタフェース (CLI) を使用して ILOM SP にログインできません。

#### 対処方法

16 文字より少ない文字数のパスワードを選んでください。

## ILOM CLI で報告されるハードウェアコンポーネントのデータと IPMItool で報告されるデータが一致しない (6371317、6420808)

フィールド交換可能なユニット (FRU) のハードウェアコンポーネントに関するデータは、ILOM コマンドラインインタフェース (CLI) から問い合わせる場合と、IPMItool から問い合わせる場合とでは、一貫して報告されません。CLI コマンドで返される FRU データは場合によっては完全ではありません。IPMItool から読み込まれる FRU データは正確で完全です。

### 対処方法

CLI コマンドで返される FRU データに頼らず、代わりに IPMItool を使用して FRU データを表示してください。

## 点滅する LED に ILOM CLI クエリーを実行すると、LED が点灯しているのか消灯しているのかによって、発動の状態と返されたり、アサート停止の状態と返されたりする (6417946、6420919)

システムの LED の中には、位置特定 LED など、点滅の状態のものがあります。CLI 経由で ILOM クエリーコマンドを入力すると、LED の点滅が点灯しているのか消灯しているのかによって、LED の状態が発動と報告されたり、アサート停止と報告されたりします。たとえば、show /SYS コマンドを数回入力すると、その時点で、LED の点滅が点灯しているのか消灯しているのかによって、LED が発動またはアサート停止の状態として表示されます。

### 対処方法

点滅する LED の状態を問い合わせるには CLI コマンドに頼らず、代わりに IPMItool コマンドを使用してください。たとえば、デフォルトのユーザー名が root でデフォルトのパスワードが changeme のサーバーの LED の状態を問い合わせるには、次のコマンドを使用します。

```
ipmitool -U root -P changeme -H <SP_IP_アドレス> sunoem led get
```

## 起動 CPU ダイオードの温度が通常より低くなる (6441857)

Sun Fire X4600 M2 サーバーには CPU の温度を報告するセンサーがあります。温度測定値は、CPU にかかる作業負荷によって大きく変化します。PowerNOW! サポート付きの最新の AMD プロセッサが、仮想 CPU の温度を CPU の実際の物理的な温度より大幅に低く報告することがあります。場合によっては、マイナスの温度が報告されることもあります。

詳細は、『AMD BIOS and Kernel Developers Guide (AMD BIOS およびカーネル開発者ガイド)』および『ILOM Supplement for Sun Fire X4600 and Sun Fire X4600 M2 Servers (Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバー用 Integrated Lights Out Manager 補足ドキュメント)』(819-5432) を参照してください。これらのドキュメントについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

### 対処方法

その他の周辺温度センサーを参照して、システムの物理的な温度を監視してください。

## ブートアップ中にシリアル接続に関する無視できるエラーメッセージが表示される (6484089)

サーバーのシリアル管理ポート (SER MGT) にシリアルコンソールを接続している場合、シリアルコンソールに次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

```
rm: cannot remove `/conf/cpu*.fru2': No such file or directory  
(rm: `/conf/cpu*.fru2' を削除できません : 対象となるファイルまたはディレクトリがありません)
```

```
rm: cannot remove `/conf/bios.fru2': No such file or directory  
(rm: `/conf/bios.fru2' を削除できません : 対象となるファイルまたはディレクトリがありません)
```

```
rm: cannot remove `/conf/dimm*.fru2': No such file or directory  
(rm: `/conf/dimm*.fru2' を削除できません : 対象となるファイルまたはディレクトリがありません)
```

### 対処方法

これらのメッセージは、SP の問題を示すものではないので、無視してかまいません。



## BIOS POST エントリの変更により、BIOS イベントの一部が ILOM GUI システムのイベントログに記録されない (6484085)

BIOS POST ログが変更され、2つの新しいエントリが追加されました。新たに追加されたエントリは ILOM システムイベントログ (SEL) でデコードされないため、BIOS POST イベントは ILOM GUI の SEL に表示されません。

### 対処方法

ILOM GUI の SEL を使用して BIOS イベントを正確に表示するには、次の代替方法を使用します。

- IPMItool sel list コマンドを使用して SEL を表示します。

IPMItool の使用方法については、『Sun Fire X4600 and Sun Fire X4600 M2 Servers Diagnostics Guide (Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバー診断ガイド)』(819-4343) を参照してください。

- BIOS イベントログを使用して BIOS 情報を表示します。

BIOS イベントログおよび POST コードの表示方法については、『Sun Fire X4600 and Sun Fire X4600 M2 Servers Diagnostics Guide (Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバー診断ガイド)』(819-4343) を参照してください。

## IPMItool と ILOM GUI で同時にアクセスすると、GUI データが正確に表示されない (6484162)

ILOM GUI および IPMItool コマンドを使用して同時にシステム情報にアクセスしようとすると、1つまたは複数のコマンドがデータを返さないことがあります。これは、IPMI スタックアクセスにおける制限による正常な動作です。

### 対処方法

ほとんどの場合は、再試行することでコマンドが正常に動作します。IPMI コマンドを頻繁に実行したり、複数のインタフェースを使用して SP をポーリングしたりしないでください。

## SSL 証明書がアップデートされたときに、SP がユーザーに自動的に通知しない (6484082)

ILOM とセキュア HTTPS 接続を確立するには、SSL 証明書と非公開鍵を ILOM にアップロードします。証明書が Web 経由でアップロードされると、SP の `/conf/actualcert.pem` に置かれます。同様に、非公開鍵は `/conf/actualprivkey.pem` に置かれます。SP をリセットしないと、アップデートは適用されません。SSL 証明書のアップデートについての詳細は、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』(819-6808) を参照してください。

SP をリセットすると、鍵が変更されたことを通知するポップアップメッセージが表示され、その鍵を 1 回限りのログイン用に受け入れるか、常時受け入れるかを選択するように指示されます。ただし、Sun Fire X4600 M2 サーバーでは、このポップアップメッセージは表示されません。

### 対処方法

SSL 証明書と鍵がアップデートされたかどうかを確認するには、次の手順に従います。

1. ブラウザを終了して再起動します。
2. ブラウザを使用して、サーバーの IP アドレスに接続します (HTTPS を使用)。
3. URL が証明書のホスト名と一致しないことを通知するポップアップメッセージを承諾します。
4. 「View Certificate (証明書を表示)」 ボタンをクリックして、サーバーが使用している SSL 証明書のバージョンを確認します。

## SSH 経由のコマンドが中断されたり繰り返されたりすると、SP がハングすることがある (6378849)

SSH 接続経由で発行された ILOM コマンドが中断されたり、頻繁に繰り返されたりすると、SP がハングすることがあります。

### 対処方法

ILOM SP をリセットしてください。SP をリセットするには、次のコマンドを使用します。

```
ipmitool -U root -P <パスワード> -H <SP_IP アドレス> bmc reset cold
```

frequent/polling コマンドには、IPMItool インタフェースを使用してください。スク립トされた CLI コマンドが正常に終了し、中断されていないことを確認します。

## 仮想フロッピーデバイスが応答せず、Solaris のブート時間が非常に遅くなる (i2c ハング) (6401983)

ILOM ファームウェアによってエミュレートされた仮想 USB フロッピーデバイスを検出するときに、Solaris オペレーティングシステムのブート速度が遅くなる場合があります。これは、Solaris ディスクドライバが仮想デバイスの容量読み取りを何度か試行してから中断するためです。

### 対処方法

/etc/system の scsa2usb ドライバを除外するか、無効にしてください。

## シェルプロンプト応答がないので、ルートユーザーが ILOM にログインできない (6444399、6475327)

i2c エラーによって、ILOM SP の機能が停止することがあります。この場合、シェルプロンプトが受信されないため、ILOM SP からの応答がありません。

### 対処方法

ILOM SP をリセットしてください。SP をリセットするには、次のコマンドを使用します。

```
ipmitool -U root -P <パスワード> -H <SP_IP アドレス> bmc reset cold
```

# Sun Fire X4600 M2 サーバーに誤って不適切なプラットフォームファームウェアをフラッシュしてしまった場合の回復

Sun Fire X4600 M2 サーバーに誤って不適切なプラットフォームファームウェアをフラッシュしてしまった場合は、次のコマンドを使用して、サーバーハードウェアのバージョンを確認します。

```
ipmitool -H <SP_IP_アドレス> -U <ユーザー名> -P <パスワード> fru  
FRU Device Description (FRU デバイスの説明) : p0.card.fru (ID 10)  
Board Product (ボード製品) : ASSY,CPU BOARD,X4600  
Board Serial (ボードシリアル番号) : 002555  
Board Part Number (ボード部品番号) : 501-7321-03  
Board Extra (ボード追加) : 01  
Board Extra (ボード追加) : G4_CPU
```

「Board Product (ボード製品)」行に ASSY,CPU BOARD,X4600 M2 以外の情報が表示されている場合は、サーバーに不適切なファームウェアが読み込まれています。たとえば、ASSY,CPU BOARD,X4600 と表示されている場合は、Sun Fire X4600 ファームウェアを Sun Fire X4600 M2 に誤ってフラッシュしたと考えられます。

## 回復手順

システムはリブートしません。ただし、Sun Fire X4600 M2 ファームウェアに戻せるように、サービスプロセッサは引き続き機能しています。

1. Sun Fire X4600 M2 ファームウェアの最新版をダウンロードしてフラッシュアップグレードします。
2. サーバーをリブートします。
3. 次のコマンドを使用して、サーバーハードウェアのバージョンを確認します。

```
ipmitool -H <SP_IP_アドレス> -U <ユーザー名> -P <パスワード> fru  
このコマンドを実行すると、次のような出力が返されます。  
FRU Device Description (FRU デバイスの説明) : p0.card.fru (ID 10)  
Board Product (ボード製品) : ASSY,CPU BOARD,X4600 M2  
Board Serial (ボードシリアル番号) : 002555  
Board Part Number (ボード部品番号) : 501-7321-03  
Board Extra (ボード追加) : 01  
Board Extra (ボード追加) : G4_CPU_F
```

「Board Product (ボード製品)」行に X4600 M2 と表示されている場合は、サーバーに正しいファームウェアが読み込まれています。

## しきい値が低すぎるため、CPU 温度測定値が煩雑になることがある (6412517)

サービスプロセッサファームウェアで CPU 温度のしきい値が非常に低く設定されているために、サーバーが不必要にシャットダウンされることがあります。根本的な原因を調査中です。

### 対処方法

ありません。

## BIOS イベントログが CE エラーを検出しても、SP SEL に同じ CE エラーが表示されない (6463628)

修正可能なメモリーエラー (CE) は BIOS イベントログには報告されていましたが、システムイベントログ (SEL) には報告されていませんでした。

### 対処方法

ありません。CE の報告については、BIOS イベントログを参照してください。

# 実装されていないシンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップ (6300437)

次のトラップは現在サポートされていません。

- SUN-PLATFORM-MIB
  - sunPlatObjectCreation
  - sunPlatObjectDeletion
  - sunPlatCommunicationsAlarm
  - sunPlatEnvironmentalAlarm
  - sunPlatEquipmentAlarm
  - sunPlatProcessingErrorAlarm
  - sunPlatStateChange
  - sunPlatAttributeChangeInteger
  - sunPlatAttributeChangeString
  - sunPlatAttributeChangeOID
  - sunPlatQualityOfServiceAlarm
  - sunPlatIndeterminateAlarm
- ENTITY-MIB
  - entConfigChange
- SNMPv2-MIB
  - coldStart
  - warmStart
  - authenticationFailure

## その他の SNMP の問題

次の SNMP の問題には限界があることが知られています。

- SNMP エージェントは現在、Entity および Sun Platform MIB で SET を扱いません。このため、SET を含む準拠確認テストはエラーになります。必要なタスクを実行するには、他のサービスを利用してください。(6255301)
- SNMP ユーザーが削除されているときのエラーメッセージが明確ではありません。たとえば、ある動作の直後にユーザーが削除されている場合、「Target cannot be deleted (ターゲットは削除できません)」というメッセージが表示されます。通常、これらのコマンドは無視してかまいません。ただし、スクリプトされたコマンドは正常終了しない場合があります。(6284706)
- 複数の接続があると、それに対応して SNMP エージェントが停止します。この場合、SNMP またはシステムをリブートする必要があります。(6290651)
- ユーザーが追加されると、エラーメッセージが表示されます。たとえば、「SNMP agent not up yet, may be reconfiguring (SNMP エージェントがブートしていません。再設定中の場合があります)」というメッセージが表示されます。通常、このメッセージは無視してかまいません。(6292473)

- sysUpTime の値が不正である場合があります。たとえば、数日前に組み立てられたシステムの連続稼働時間が 51 日間と表示されることがあります。これらの値は無視してかまいません。(6295609)
- CLI を使用してコミュニティ最大数を設定すると、SNMP エージェントが切断され、システムのリポートが必要になる場合があります。(6316403)

---

## BIOS の問題

### DIMM ペア 1 の修正不可能な DIMM エラーが DIMM ペア 0 として報告される

DIMM ペア 1 (J5 ~ J6 に接続) の修正不可能なエラー (UE) DIMM が、DIMM ペア 0 で発生しているように報告され、削除できません。サーバーはリポートし続けます。

#### 対処方法

連続リポート中に、システムイベントログ (SEL) で DIMM エラーを確認してください。CPU<sub>n</sub> DIMM0 を示す UE レポートがある場合は、DIMM ペア 1 に UE が発生しています。DIMM ペア 1 の片方または両方の DIMM を手動で交換してください。

### F8 キーと F12 キーがブート用の NIC カードの選択時に機能しない (6483787)

ネットワークインタフェースコントローラ (NIC) カードを取り付けて、システム BIOS で内蔵 NIC より先に NIC カードがスキャンされるようにブート順を指定したときは、ブートアップ中にネットワークからブートするために F12 キーを押すと、NIC カードからブートするはずですが、F12 キーを押しても、NIC カードからシステムがブートしません。

また、ブートアップ中に F8 キーを押してブート選択リストから NIC カードを選択しようとしても機能しません。

#### 対処方法

NIC カードからブートするには、内蔵 NIC を無効にする必要があります。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「PCIPnP」タブを選択して、「PCI/PnP Settings (PCI/PnP 設定)」画面を開きます。
3. 「Onboard NIC (内蔵 NIC)」フィールドを「Disabled (無効)」に変更します。



4. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

## メモリー帯域幅が想定した値より低くなる (6468342)

メモリー帯域幅が AMD のガイドンス仕様より約 4G バイト / 秒低くなっています。サーバーパフォーマンスにはほとんど影響ありませんが、根本的な原因を調査中です。

### 対処方法

ありません。

## メモリーの待ち時間が想定した値より高くなる (6468344)

メモリーの待ち時間が AMD のガイドンス仕様より約 17 ナノ秒高くなっています。サーバーパフォーマンスにはほとんど影響ありませんが、根本的な原因を調査中です。

### 対処方法

ありません。

## BIOS が Four Bank Activate Window パラメータ を正しく設定しない (6480843)

tFAW パラメータ (DRAM Configuration High Register の bits [31:28]) は現在、333 MHz に対して 17 クロックに設定されています。これは、2K ページサイズ DRAM 用の設定です。システムでは x4 または x8 DRAM のみを使用するので、tFAW パラメータを 1K ページサイズを使用して設定するか、333 MHz 動作に対して 13 クロック、266 MHz に対して 10 クロック、および 200 MHz に対して 8 クロックに設定する必要があります。この結果、メモリー帯域幅が若干制限される場合があります。

## 対処方法

ありません。

## HPET タイマーを有効にすると、ランダムパニックが発生することがある (6478355)

このサーバーでいくつかのオペレーティングシステムと高性能イベントタイマー (HPET) を併用すると、システムパニック (リブート) が発生することがあります。この場合は、ブートプロセス中の最後の POST ウィンドウと /var/log/messages ファイルに次のようなメッセージが表示されます。

```
MT-BIOS bug: 8254 timer not connected to IO-APIC  
(MT-BIOS バグ : 8254 タイマーが IO-APIC に接続されていません)
```

## 対処方法

この問題が発生した場合は、HPET タイマーを無効にします。この設定は、BIOS セットアップユーティリティの「ACPI Configuration (ACPI 構成)」画面の「Advanced (詳細)」メニューにあります。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Advanced (詳細)」タブを選択して、「Advanced (詳細)」メニュー画面を開きます。
3. 「Advanced (詳細)」メニュー画面で、「ACPI Configuration (ACPI 構成)」を選択します。
4. 「ACPI Configuration (ACPI 構成)」画面で、「Advanced ACPI Configuration (ACPI の詳細構成)」を選択します。
5. 「ACPI HPET Support (ACPI HPET サポート)」フィールドを「Disabled (無効)」に変更します。
6. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
7. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

## すべてのデバイスがスキャンされる前に、PXE ブート用のオプション ROM の容量が使い果たさ れる可能性がある (6453144、6403173、6272514、 6393809、6439856、6462303)

BIOS オプション ROM の容量は制限されているので、システムに多数のオプション  
カードが取り付けられていると、容量が使い果たされる可能性があります。

これは、正常な動作です。

考えられる影響：

- イーサネットポートから PXE ブートできず、次のエラーメッセージが表示されます。  
Not enough space to copy PCI Option ROM  
(PCI オプション ROM をコピーするのに十分な容量がありません)
- イーサネットポートから PXE ブートできず、次のエラーメッセージが表示されます。  
Base-Code ROM ID structure not found  
(ベースコード ROM ID 構造が見つかりませんでした)
- オプション ROM の容量が使い果たされたあとでスキャンされる PCI スロットに  
PCI カードが取り付けられていると、PXE ブートできません。
- オプション ROM の容量が使い果たされたあとでスキャンされる PCI スロットに  
HBA カードとそのカードに接続されている HDD アレイが取り付けられている  
と、それらは検出されません。

デバイスおよび PCI スロットはセットアップの間に、BIOS によって次の順序で検出  
されます (PCI スロットの検出については、[図 1](#) も参照)。

1. PCI-E スロット 2
2. PCI-E スロット 3
3. PCI-E スロット 4
4. 内蔵 Intel NIC
5. PCI-X スロット 0
6. PCI-X スロット 1
7. 内蔵 LSI SCSI コントローラ
8. PCI-E スロット 5
9. PCI-E スロット 6
10. PCI-E スロット 7

## 対処方法

目的のデバイスから PXE ブートできるようにオプション ROM の容量を確保するには、次の 2 つの方法があります。

- ブートするデバイスが BIOS のブートデバイスリストに表示されている場合は、次のオプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。
- ブートするデバイスがブートデバイスリストに表示されていない場合は、次のオプション 1 の手順に従ってデバイスをリストに表示してから、オプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。

**オプション 1:** PXE ブートを必要としないすべてのデバイスのオプション ROM スキャンを無効にします。こうすることで、PXE ブートするデバイス用にオプション ROM の容量を確保できます。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「PCIPnP」タブを選択して、「PCI/PnP Settings (PCI/PnP 設定)」画面を開きます。
3. PXE ブートしない PCI カードまたは NIC のフィールドを「Disabled (無効)」に変更します。
4. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

**オプション 2:** BIOS ブート順を手動で設定して、オプション ROM の容量が使い果たされる前にスキャンされるように PXE ブートするデバイスのブート順を繰り上げます。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Boot (ブート)」タブを選択して、「Boot (ブート)」メインメニュー画面を開きます。
3. 「Boot Device Priority (ブートデバイス優先度)」を選択するか、リストから「Hard Disk Drives (ハードディスクドライブ)」を選択してハードディスクドライブに変更します。
4. ブートデバイスまたはハードディスクドライブの選択項目を変更して、必要なデバイス順になるように設定します。

5. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
6. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

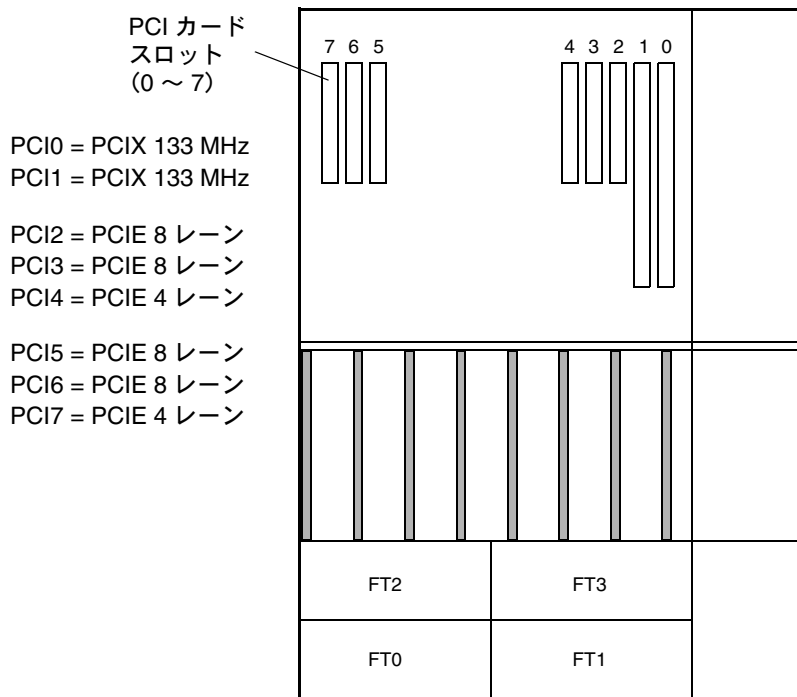


図 1 Sun Fire X4600 M2 PCI スロットの構成と速度

## BIOS ですべてのデバイスがスキャンされる前に、 12 個のブートデバイス制限を超える可能性がある (6268877、6439856)

サーバー BIOS は最大 12 個のデバイスをスキャンできますが、サーバーに取り付けられているデバイスによっては、サーバー内のすべてのデバイスがスキャンされる前に、この制限を超える可能性があります。たとえば、ディスクアレイが接続された HBA を、内蔵 LSI SAS コントローラの前にスキャンされる PCI スロットに取り付けた場合、HBA とそれに接続されている HDD で 12 デバイス制限を超えると、内蔵 HDD がスキャンされないことがあります。

これは、正常な動作です。12 デバイス制限を超えたデバイスは、OS レベルでは参照できますが、POST 中の BIOS ではスキャンされません。

考えられる影響：

- 内蔵 HDD からブートできません。
- NIC がスキャンされないため、PXE ブートで使用できません。

BIOS は PCI デバイスを昇順（低い PCI アドレスから高い PCI アドレスへ）でスキャンします。スキャンの優先度は次のとおりです。

1. PCI-E スロット 2
2. PCI-E スロット 3
3. PCI-E スロット 4
4. 内蔵 Intel NIC
5. PCI-X スロット 0
6. PCI-X スロット 1
7. 内蔵 LSI SCSI コントローラ
8. PCI-E スロット 5
9. PCI-E スロット 6
10. PCI-E スロット 7

PCI スロットの位置については、[図 1](#) を参照してください。

### 対処方法

次のオプション 1 の手順に従ってデバイスをリストに表示してから、オプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。

**オプション 1:** PXE ブートを必要としないすべてのデバイスのオプション ROM スキャンを無効にします。こうすることで、PXE ブートするデバイス用にオプション ROM の容量を確保できます。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「PCIPnP」タブを選択して、「PCI/PnP Settings (PCI/PnP 設定)」画面を開きます。
3. PXE ブートしない PCI カードまたは NIC のフィールドを「Disabled (無効)」に変更します。
4. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

**オプション 2:** BIOS ブート順を手動で設定して、オプション ROM の容量が使い果たされる前にスキャンされるように PXE ブートするデバイスのブート順を繰り上げます。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Boot (ブート)」タブを選択して、「Boot (ブート)」メインメニュー画面を開きます。
3. 「Boot Device Priority (ブートデバイス優先度)」を選択するか、リストから「Hard Disk Drives (ハードディスクドライブ)」を選択してハードディスクドライブに変更します。
4. ブートデバイスまたはハードディスクドライブの選択項目を変更して、必要なデバイス順になるように設定します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
6. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

## HBA カードを取り付けるか取り外すと、BIOS 設定のハードディスクドライブの順序が変更される (6308569、6450677)

サポートされているホストバスアダプタ (HBA) カードを取り外すか取り付けると、BIOS 内の HDD の順序が変更されることがあります。HBA に接続されている HDD が先にスキャンされた場合、システムを内蔵 HDD から OS レベルまでブートできないことがあります。

BIOS は PCI デバイスを昇順 (低い PCI アドレスから高い PCI アドレスへ) でスキャンします。スキャンの優先度は次のとおりです。

1. PCI-E スロット 2
2. PCI-E スロット 3
3. PCI-E スロット 4
4. 内蔵 Intel NIC
5. PCI-X スロット 0
6. PCI-X スロット 1
7. 内蔵 LSI SCSI コントローラ
8. PCI-E スロット 5
9. PCI-E スロット 6
10. PCI-E スロット 7

PCI スロットの位置については、[図 1](#) を参照してください。

### 対処方法

これは、正常な動作です。外付けストレージデバイスに接続された、サポートされている HBA カードを取り付けたあと、または取り外したあと、目的のデバイスからブートできるようにするには、次の 2 つの方法があります。

- ブートするデバイスが BIOS のブートデバイスリストに表示されている場合は、次のオプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。
- ブートするデバイスがブートデバイスリストに表示されていない場合は、次のオプション 1 の手順に従ってデバイスをリストに表示してから、オプション 2 の手順に従ってスキャン順序を変更します。



**オプション 1:** PXE ブートを必要としないすべてのデバイスのオプション ROM スキャンを無効にします。こうすることで、ブートするデバイスがリストに表示されるようになります。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「PCIPnP」タブを選択して、「PCI/PnP Settings (PCI/PnP 設定)」画面を開きます。
3. PXE ブートしない PCI カードまたは NIC のフィールドを「Disabled (無効)」に変更します。
4. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

**オプション 2:** BIOS ブート順を手動で設定して、オプション ROM の容量が使い果たされる前にスキャンされるように PXE ブートするデバイスのブート順を繰り返します。次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Boot (ブート)」タブを選択して、「Boot (ブート)」メインメニュー画面を開きます。
3. リストから「Hard Disk Drives (ハードディスクドライブ)」を選択します。
4. ブートデバイスの選択項目を変更して、必要なブートデバイス順になるように設定します。
5. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
6. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

---

## LSI ファームウェアの問題

### RAID ボリュームで 64M バイトのパーティション 分けしていないハードディスク容量がメタデータ 用に必要になる (6312581)

RAID ボリュームを作成するには、ファームウェアと BIOS によりハードディスクドライブ (HDD) の最後にメタデータを書き込む必要があります。このため、少なくとも 64M バイトのパーティション分けしていないハードディスク容量が必要です。

Solaris 10 1/06 OS (またはそれ以降) がプリインストールされているサーバーの場合は、プリインストールイメージに、64M バイトを超えるパーティション分けしていない、メタデータ用のハードディスク容量が含まれています。このため、特別な操作は必要ありません。

# ソフトウェアの問題

---

この章では、Sun Fire X4600 M2 サーバーに関連するソフトウェアの問題について説明します。次の項目が含まれます。

- 24 ページの「Solaris オペレーティングシステムの問題」
- 26 ページの「Linux オペレーティングシステムの問題」
- 35 ページの「VMWare® ESX Server の問題」
- 39 ページの「SunVTS のブート可能診断 CD の問題」
- 40 ページの「Windows Server 2003 オペレーティングシステムの問題」

---

# Solaris オペレーティングシステムの問題

## Solaris の起動時に表示される AMD エラッタ 131 警告メッセージは無視してかまわない (6438926、6447850)

Solaris AMD x64 サポートには、AMD Opteron エラッタ 131 の BIOS 回避策の有無を確認するブート時チェックが含まれています。エラッタ 131 の回避策が必要であるのに、まだ実装されていないことを検出すると、Solaris は次の警告メッセージをログに記録して表示します。

```
WARNING: BIOS microcode patch for AMD Athlon(tm) 64/Opteron(tm)
processor erratum 131 was not detected; updating your system's BIOS
to a version containing this microcode patch is HIGHLY recommended or
erroneous system operation may occur.
```

(警告：AMD Athlon(tm) 64/Opteron(tm) プロセッサエラッタ 131 用の BIOS マイクロコードパッチが検出されませんでした。システムの BIOS をこのマイクロコードパッチを含むバージョンに更新することを強くお勧めします。更新しないと、システムの誤動作が発生する可能性があります)

### 対処方法

Sun Fire X4600 BIOS は、エラッタ 131 に必要な回避策を含む上位回避策を実装しているため、この警告メッセージは無視してかまいません。

## 2 番目のディスクを挿入すると、CD メディアからの Solaris 10 のインストールがハングする (6374024)

CD メディアから Solaris 10 をインストール中に、2 番目の CD を挿入しても 2 番目の CD が見つからないと Solaris で報告されます。

この問題は今後のリリースで解決される予定です。

### *対処方法*

ネットワークインストールを行う場合にはこの問題は発生しません。そのため、Solaris は CD イメージのマウントと読み込みを行うことができます。この問題は、複数の CD を使用せずに DVD メディアからインストールすることにより回避することもできます。

---

# Linux オペレーティングシステムの問題

## X Windows Server の起動時の RHEL4 U3 の不一致エラー (6459079)

X Windows を Red Hat Linux 4 U3 で起動すると、次のエラーが表示されることがあります。

```
mtrr: type mismatch for fd000000,800000 old: write-back new:  
write-combining  
(mtrr: fd000000,800000 のタイプが一致しません。旧 : 書き込みバック 新 : 書き  
込み結合)
```

### 対処方法

ありません。このメッセージは無視してかまいません。システムの機能には影響しません。

## RHEL4 U3: LSI ハードウェア RAID が LVM パーティションドライブで機能しない (6450742)

Red Hat Enterprise Linux 4 U3 を LVM ハードドライブパーティションとともにインストールした場合に、LSI SAS ユーティリティを使用してハードドライブで RAID をセットアップしようとする、次のメッセージが表示されます。

```
Data will be destroyed  
(データが破損します)
```

### 対処方法

ハードドライブで RAID を使用する予定の場合は、RHEL4 U3 を LVM パーティションとともにインストールしないでください。

## 特定の Linux プラットフォームで USB 1.1 を使用するときは無視できるエラーメッセージが表示される (6396561)

RHEL4 U3/U4、または SUSE Linux Enterprise Server 9 サービスパック 3 (SLES9 SP3) を実行するサーバー上で、BIOS セットアップユーティリティで「USB1.1 only (USB1.1 のみ)」または「USB 1.1 + USB2.0 (USB 1.1 および USB2.0)」が設定されているときに、デバイスがサーバーの USB ポートに差し込まれると、dmesg ログに次のエラーメッセージが表示されます。

```
drivers/usb/input/hid-input.c: event field not found  
(drivers/usb/input/hid-input.c: イベントフィールドが見つかりません)
```

このメッセージは無視してかまいません。

### 対処方法

現時点ではありません。

## RHEL4 U3 で USB 2.0 がサポートされない (6396407)

Sun Fire X4600 上の nVidia USB コントローラでは、USB 2.0 構造にマップされているメモリーは 2G バイト未満である必要があります。2G バイトを超えるメモリーが使用されると、不適切な動作が発生します。USB 2.0 が RHEL4 U3 で正しく動作するためには、今後のパッチが必要です。それまでサポートされるのは USB 1.1 のみです。

### 対処方法

BIOS USB コントローラのサポートオプションを「USB 1.1 only (USB 1.1 のみ)」に設定するには、次の手順に従います。

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Advanced (詳細)」タブを選択して、「Advanced (詳細)」メニュー画面を開きます。
3. 「Advanced (詳細)」メニュー画面で、「USB Configuration (USB 構成)」を選択します。
4. 「USB Configuration (USB 構成)」画面で、「USB Controller Support (USB コントローラサポート)」を「USB1.1」に変更します。

5. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
6. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

## RHEL4 U4 のタイマーティックのロスに関するメッセージは無視してかまわない (6483062)

高い負荷がかかっている場合、RHEL4 メッセージファイルおよび dmesg ログファイルに、次のようなメッセージが表示されることがあります。

```
Warning many lost ticks
```

(警告：ティックのロスが多数あります)

```
Your time source seems to be unstable or some driver is hogging interrupts.
```

(タイムソースが不安定になっているか、一部のドライバが割り込みを大量に消費している可能性があります)

このメッセージは異なる IRQ ハンドラ間の競合により発生しますが、システムへの悪影響はありません。

### 対処方法

ありません。

## ドライブトレイがないために RHEL4 U3/U4 の CD または DVD-ROM パケットコマンドエラーが発生する (6397835、6461354)

RHEL4 U3/U4 のブートプロセス中に、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
hda: packet command error: status=0x51 { DriveReady  
SeekComplete Error }
```

(hda: パケットコマンドエラー：ステータス=0x51 { DriveReady  
SeekComplete エラー})

```
hda: packet command error: error=0x50
```

(hda: パケットコマンドエラー：エラー=0x50)

```
ide: failed opcode was 100
```

(ide: 失敗した opcode は 100 でした)



このエラーは、サーバーに含まれるトレイのない CD または DVD-ROM ドライブを IDE ドライブが処理する方法に関する既知の問題です。このエラーは、ドライブが CD または DVD-ROM ドライブトレイを閉じようとするために発生します。このドライブにはトレイがないため、エラーが報告されます。

### 対処方法

ありません。このエラーは無視してかまいません。

## RHEL4 U3/U4 および SLES9 SP3 で GUI をブート中に無視できるエラーメッセージが表示される (6396561)

RHEL4 U3/U4 または SLES9 SP3 を実行しているサーバー上で、グラフィカルユーザーインターフェースをブートしているときに、`dmesg` ログに次のエラーメッセージが複数回、表示されることがあります。

```
drivers/usb/input/hid-input.c: event field not found  
(drivers/usb/input/hid-input.c: イベントフィールドが見つかりません)
```

X 初期化中に、デバイスの一部が同期を失い、EV\_REP イベントの一部が入力イベントとして誤って解釈される可能性があります。これは HID ドライバのバグが原因で発生します。このメッセージは無視してかまいません。

### 対処方法

ありません。

## SLES9 SP3 のインストール中に 128G バイトのスワップパーティションを作成できない (6480937)

YaST を使用して SLES9 SP3 をインストールしているときに、ハードディスクの準備作業で次のようなエラーメッセージが返されることがあります。

```
Error: Could not set up swap partition /dev/sda1  
(エラー : スワップパーティション /dev/sda1 をセットアップできませんでした)
```

「OK」をクリックすると、インストールが正常に完了します。インストール後、対処方法に示すコマンドを使用して必要なスワップパーティションをセットアップできます。

## 対処方法

スワップパーティションを手動でセットアップするには、次の手順に従います。

1. SLES9 SP3 のインストールが完了してサーバーがブートしたら、ルートユーザーとしてログインします。

2. ターミナルウィンドウで次のコマンドを発行します。

```
# mkswap <スワップパーティションスペース>
```

```
# swapon <スワップパーティションスペース>
```

3. /etc/fstab ファイルで、スワップパーティション用のエントリがない場合は作成し、オプションとして **default** を指定します。次のようになります。

```
/dev/sdj5 swap swap defaults 0 0
```

## SLES9 SP3 のブートアップ ACPI エラーメッセージ: 戻りオブジェクトのタイプが正しくない (6461361)

SLES9 SP3 のブートアップ中に、次のメッセージが表示されます。

```
ACPI-0201: *** Error: Return object type is incorrect [SB_.LATA._CRS]
(ACPI-0201: *** エラー: 戻りオブジェクトのタイプが正しくありません [SB_.LATA._CRS])
(Node 00000107ffffdc180), AE_TYPE
((ノード 00000107ffffdc180)、AE_TYPE)
```

## 対処方法

ありません。システムの機能には影響しません。このメッセージは無視してかまいません。

## SLES9 SP3 でフロッピードライブに対して重複するブートアップメッセージが発生する (6461350)

ブートアップ中に、SLES9 SP3 カーネルが次のメッセージを何度も出力します。

```
Attached scsi removable disk sdb at scsi2, channel 0, id 0, lun 0
(接続されている SCSI リムーバブルディスク sdb: scsi2, channel 0, id 0, lun 0)
Attached scsi generic sg2 at scsi2, channel 0, id 0, lun 0, type 0
(接続されている SCSI 一般 sg2: scsi2, channel 0, id 0, lun 0, type 0)
  Vendor: AMI          Model: Virtual Floppy   Rev: 1.00
  (ベンダー : AMI      モデル : 仮想フロッピー   リビジョン : 1.00)
  Type:   Direct-Access          ANSI SCSI revision: 02
  (タイプ :   ダイレクトアクセス          ANSI SCSI リビジョン : 02)
```

複数回出力されるメッセージそれぞれに異なるドライブ名が表示されます。上の例では、ドライブ名は sdb です。

### 対処方法

フロッピードライブにアクセスするには、最初のメッセージのドライブ名を使用し、それ以降のメッセージは無視します。

## エラーメッセージ: SLES9 SP3 で「Not a Capable Intel Processor (対応する Intel プロセッサではありません)」と表示される (6461373)

SLES9 SP3 システムのブートアップ中に、すべてのタイプのプロセッサに対して次のメッセージが表示されます。

```
IA-32 Microcode Update Driver: v1.13 <tigran@veritas.com>
(IA-32 マイクロコードアップデートドライバ: v1.13 <tigran@veritas.com>)
microcode: CPU1 not a capable Intel processor
(マイクロコード: CPU1 は対応する Intel プロセッサではありません)
microcode: CPU0 not a capable Intel processor
(マイクロコード: CPU0 は対応する Intel プロセッサではありません)
```

このメッセージは、システムのすべてのプロセッサに対して表示されます。

### 対処方法

ありません。このメッセージは無視してかまいません。

## SLES9 SP3 をグラフィカルモードでインストールすると、メモリー不足を通知するメッセージが表示される (6368933、6466229)

SLES9 SP3 を CD からグラフィカルモードでインストールするように選択すると、このモードでのインストールに必要とされる 96M バイト未満のメモリーしかないことを通知するテキストメッセージが表示されます。

### 対処方法

テキストモードに切り替えて製品をインストールしてください。

## SLES9 SP3 で cdrecord -scanbus コマンドを発行すると、警告メッセージが表示される (6461376)

SLES9 SP3 システムで、cdrecord -scanbus コマンドを入力すると、次の警告メッセージが表示されます。

```
pg: module not supported by Novell, setting U taint flag.  
(pg: モジュールが Novell でサポートされていません。U 汚染フラグが設定されます)  
pg: pg version 1.02, major 97  
(pg: pg バージョン 1.02、メジャー 97)  
pga: Autoprobe failed  
(pga: 自動プローブに失敗しました)  
pg: No ATAPI device detected  
(pg: ATAPI デバイスが検出されませんでした)
```

### 対処方法

対処方法はありません。

## Emulex LPe11002 HBA カードが原因で POST が完了しない (6480975)

Emulex LPe11002 ホストバスアダプタ (HBA) が PCIe スロットのいずれかに取り付けられていると、POST 中のメモリーカウント後にシステムがリブートします。

### 対処方法

1. Advanced Error Reporting (詳細エラー報告) を実装しているデバイスの場合、「Uncorrectable Error Mask (修正不可能なエラーマスク)」レジスタの「Unsupported Request Error Mask (サポートされていない要求エラーマスク)」ビットを設定します。
2. レガシーの「SERR Enable (SERR を有効にする)」ビットは設定しません。代わりに、「Device Control Register (デバイス制御レジスタ)」の PCI-Express 専用のビットを使用して、PCIe エラー報告を制御します。「Non-Fatal (致命的ではない)」および「Fatal Error Reporting Enable (致命的なエラー報告を有効にする)」ビットは設定しますが、「Unsupported Request Reporting Enable (サポートされていない要求報告を有効にする)」ビットは設定しません。
3. ERR\_NONFATAL メッセージを致命的なシステムエラーとして解釈しないようにします (ERR\_FATAL を致命的なエラーとして使用します)。

## RHEL4U4 32 ビット版ではメモリーを 64G バイト以下にする必要がある (6496678)

サーバーに 64G バイトを超える RAM がインストールされていると、Red Hat Enterprise Linux 4 U4 (32 ビット版) がロードされません (vmkernel をロードできない)。サーバーに 64G バイトを超える RAM がインストールされている場合は、いくつかの DIMM を取り外して、合計メモリーを 64G バイト以下にする必要があります。

### 対処方法

これは既知の動作です。サーバーに 64G バイトを超えるメモリーがインストールされている場合は、いくつかの DIMM を取り外して、合計メモリーを 64G バイト以下にしてください。

---

## VMWare® ESX Server の問題

### ESX Server ではメモリーを 64G バイト以下にして、CPU スロット間でバランスを取る必要がある (6477101、6486346)

サーバーに 64G バイトを超える RAM がインストールされていると、ESX Server 3 の現在のリリースがロードされません (vmkernel をロードできない)。サーバーに 64G バイトを超える RAM がインストールされている場合は、いくつかの DIMM を取り外して、合計メモリーを 64G バイト以下にする必要があります。

また、ESX Server を安定した状態で動作させるために、CPU モジュール間でメモリーのバランスを取る必要があります。つまり、各 CPU モジュールに同じ容量のメモリーをインストールするようにします。CPU モジュール間でメモリーの容量が異なる場合は、ESX Server の動作が不安定になることがあります。

#### 対処方法

サーバーに 64G バイトを超えるメモリーがインストールされている場合は、いくつかの DIMM を取り外して、合計メモリーを 64G バイト以下にしてください。ESX Server を安定した状態で動作させるには、CPU モジュールに同じ容量のメモリーをインストールする必要があります。

### ESX Server のメッセージ「Unexpected IO-APIC error (予期しない IO-APIC エラー)」は無視してかまわない (6486386、6471408)

ESX Server のメッセージ「Unexpected IO-APIC error (予期しない IO-APIC エラー)」が /var/log/dmesg ログファイルに表示されることがあります。このメッセージが表示されても、パフォーマンスや可用性には影響ありません。

#### 対処方法

ありません。

## ESX Server のメッセージ「invalid vmkernel id (無効な vmkernel id)」がネットワーク障害を表す (6471417、6486386)

ESX Server のコンソールオペレーティングシステム (COS) でメインメニュー画面に次のようなエラーが報告されることがあります。

```
0:00:00:31.223 cpu2:1038 init:I586: Invalid vmkernel id:0.  
(0:00:00:31.223 cpu2:1038 init:I586: 無効な vmkernel id:0)  
Distributed vmfs locking may not work.  
(配布された vmfs ロックが機能しない可能性があります)
```

このメッセージは、COS のネットワークが接続されていないか、正しく設定されていないことを示します。

### 対処方法

ネットワーク設定に DHCP を使用している場合は、ネットワークインタフェースリンクが正常で、DHCP サーバーが機能していることを確認してください。それ以外の場合は、インタフェースのホスト名と IP アドレスが正しく設定されていることを確認してください。

## ESX Server の dmesg ログのメッセージ「BIOS reporting unknown devices (BIOS が不明なデバイスを報告しています)」は無視してかまわない (6480821、6486386)

ESX Server の /var/log/dmesg ログファイルに「BIOS reporting unknown devices (BIOS が不明なデバイスを報告しています)」という内容のメッセージが多数記録されます。これは、ESX Server が制御しない内蔵ハードウェアが存在するときに生成されるメッセージです。これらのメッセージはシステムの可用性やパフォーマンスには影響しないので、無視してかまいません。

### 対処方法

ありません。



ESX Server のメッセージ「Syncing Hardware Clock to System Time [Failed] (ハードウェアクロックをシステム時間と同期しています [失敗])」は無視してかまわない (6486386、6473366)

ESX Server のシャットダウン中に、「Syncing Hardware Clock to System Time [Failed] (ハードウェアクロックをシステム時間と同期しています [失敗])」というメッセージが表示されます。このメッセージはシステムの可用性やパフォーマンスには影響しないので、無視してかまいません。

### 対処方法

ありません。

ESX Server のメッセージ「Unable to get COS default route (COS のデフォルトルートを取得できません)」は、デフォルトルート IP アドレスが定義されていないことを示す (6486386)

COS のデフォルトルートが指定されていない場合は、ブートアップ中に情報メッセージ「Unable to get COS default route (COS のデフォルトルートを取得できません)」が表示されます。このメッセージは、ネットワークトポロジに応じて、システムの可用性やネットワークアクセスに影響する場合と影響しない場合があります。

### 対処方法

デフォルトルートを指定するには、`/etc/sysconfig/network` ファイルに次のフォーマットで行を作成します。

```
DEFAULT=XXX.XXX.XXX.XXX
```

(XXX.XXX.XXX.XXX はデフォルトルート IP アドレス)

## ESX Server のメッセージ「Inquiry EVPD Device ID Failed (EVPD デバイス ID の問い合わせに失敗しました)」は無視してかまわない (6486386)

一部の USB および SCSI ストレージデバイスを接続しているときに、ESX Server が「INQUIRY EVPD Device ID failed (EVPD デバイス ID の問い合わせに失敗しました)」というメッセージを /var/log/dmesg ログファイルに報告することがあります。

EVPD (Extended Vital Product Data) は、SCSI デバイスから提供されるオプションデータです。ベンダーによってはこのデータをデバイスにプログラムしていないので、ESX Server の SCSI システムからこの情報メッセージが報告される場合があります。このメッセージは、システムの可用性やパフォーマンスには影響しません。

### 対処方法

ありません。

## ESX 3.0.1 VMkernel をロードできない (6477101)

4G バイト DIMM を使用してフル実装の X4600 M2 システムで 128G バイト RAM を提供している場合は、ESX 3.0.1 vmkernel をロードできず、ESX ホストが動作しなくなります。

### 対処方法

ありません。

## ESX 3.0.1 VMkernel が 1G バイト DIMM システムで不安定になることがある (6501233)

1G バイト DIMM をフル実装しているシステムでは、VMware ESX 3.0.1 が動作中に不安定になることがあります。

### 対処方法

ありません。

---

## SunVTS のブート可能診断 CD の問題

### Bootable Diagnostics CD, Version 2.1f (ブート可能診断 CD バージョン 2.1f) の「Meter (メーター)」ボタンが機能しない (6465167)

Bootable Diagnostics CD, Version 2.1f (ブート可能診断 CD バージョン 2.1f) に組み込まれている SunVTS 6.2 グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) には「Meter (メーター)」ボタンがあります。この「Meter (メーター)」ボタンは、ブート可能診断で使用できない Solaris stdperformer ユーティリティを必要とするので、機能しません。

#### 対処方法

ありません。

---

# Windows Server 2003 オペレーティング システムの問題

## 複数のフロッピードライブが存在すると、 Windows ユーティリティの mkfloppy.exe が正 しいフロッピードライブを選択しない

FloppyPack.zip に収録されている mkfloppy.exe ユーティリティは、任意の Windows システムで実行できます。このユーティリティは、Windows Server 2003 のインストール時に使用する大容量記憶装置ドライバのフロッピーを作成するために使用します。

しかし、システムに複数のフロッピードライブ（USB 接続のフロッピードライブを含む）が存在すると、mkfloppy.exe は正しいフロッピードライブを選択しません。

### 対処方法

mkfloppy.exe を使用するときは、システムのフロッピードライブが 1 つだけ存在するようにしてください。

# ハードウェアの注意および問題

---

この章では、Sun Fire X4600 M2 サーバーに関連するハードウェアの注意および問題について説明します。

---

## ハードウェアの問題

### 動作時や取り外し時にハードディスクドライブの表面が熱くなることがある (6483742)



---

**注意** – 怪我の危険：動作中はハードディスクドライブの金属面が非常に熱くなることがあります。交換中にドライブを取り外して扱うときに、指を火傷する危険があります。

---

### ヒートシンクおよびファンにほこりがたまること がある

ほこりや異物が蓄積すると、システムの冷却性能が低下することがあります。約 6 か月に 1 度（ほこりの多い動作環境ではより頻繁に）、システムのカバーを開けて点検することをお勧めします。システムのヒートシンク、ファン、および通気孔を確認してください。必要に応じて、システムを清掃します。ほこりや異物をブラシで取り除いたり、エアで吹き飛ばしたり、慎重に吸引したりしてシステムから取り除いてください。

## 最初の電源投入後システムファンが減速するまで 1 分以上かかる

注 - サーバーの最初の電源投入後、システムファンが高速から通常の稼働速度まで減速するのに 1 分以上かかる場合があります。これは正常な動作で、問題を示しているわけではありません。

## ディスクを DVD-ROM ドライブに挿入するときには、ラベル側を左に向ける必要がある

注 - ディスクを縦方向の DVD-ROM ドライブスロットに挿入するときには、ディスクのラベル側が左を向くように方向を確認してください（サーバーの中心を向くようにする）。図 2 を参照してください。

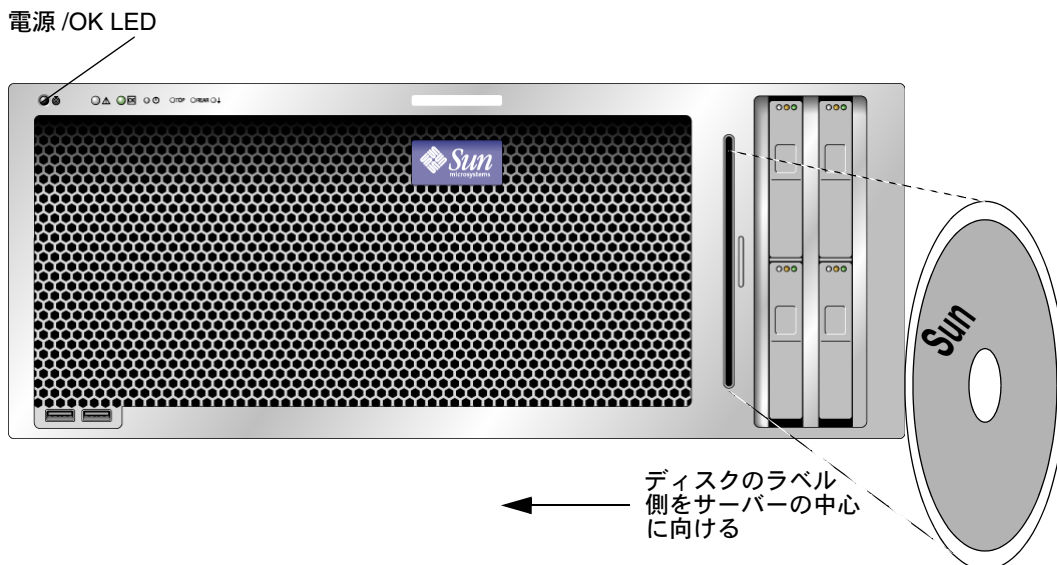


図 2 Sun Fire X4600 M2 サーバーの前面パネル

## 高負荷時に mpflip を実行すると、シンクフラッドエラーが発生することがある (6479368)

CPU に高い負荷がかかっているときに、mpflip をバックグラウンドで実行すると、シンクフラッドエラーが発生することが確認されました。根本的な原因を調査中です。

### 対処方法

ありません。

## 操作中に USB ポートが無効になる (6424279)

操作中に USB ポートが無効になることがあります。これは、nVidia USB コントローラに関係するハードウェアの問題と考えられますが、根本的な原因は調査中です。

この問題が発生すると、USB ポートに接続されているデバイスが無効になります。次のようなメッセージがファイルに報告されます。

```
[ID 691482 kern.warning] WARNING: /pci@0,0/pci108e,cb84@2 (ohci0):  
Connecting device on port 1 failed  
([ID 691482 kern.warning] 警告: /pci@0,0/pci108e,cb84@2 (ohci0): デバイ  
スのポート 1 への接続が失敗しました)
```

### 対処方法

ありません。サーバーをリブートして USB ポートを再び有効にしてください。

## マウスのボタンクリックが反応しなくなることがある (6475437)

システムに接続したマウスで問題が発生することが確認されました。マウスのボタンクリックは反応しなくなりますが、カーソルはコンソール画面上で動かすことができます。根本的な原因を調査中です。

### 対処方法

ありません。サーバーをリブートしてマウスをリセットしてください。





# 索引

---

## B

BIOS の問題 12

## E

ESX Server の問題 35

## I

ILOM ファームウェアの問題 2

## L

Linux オペレーティングシステムの問題 26

LSI ファームウェアの問題 22

## S

Solaris オペレーティングシステムの問題 24

SunVTS の問題 39

Sun テクニカルサポート、リンク先 xi

## V

VMware ESX Server の問題 35

## W

Windows Server 2003 の問題 40

## お

オペレーティングシステムの問題

ESX Server 35

Linux 26

Solaris 24

Windows Server 2003 40

## さ

サービスプロセッサファームウェアの問題 2

## せ

製品アップデート ix

## て

テクニカルサポート、リンク先 xi

## と

ドライバアップデート ix

## は

ハードウェアの問題 41

## ふ

ファームウェアアップデート ix

ファームウェアの問題 2

ブート可能診断 CD の問題 39

